

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 農学部3年

氏名: 岩田泰一郎

授業科目名	海外研修
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>今回の研修の主な目的は、ボゴール農科大学の施設や農業試験場、実際の農産物生産の現場などの視察だった。それぞれの場所では講義もあった。品種改良や製品開発、農産物の生産過程など、各施設で行われていることについて知ることができた。また、毎回の食事や移動中に眺めた街の風景から、インドネシアの文化や人々の生活の様子について理解を深めることができた。今回の研修は英語で話す練習の機会にもなった。研修に参加していた現地の学生とは、英語での会話を楽しむことができた。最終日には一人ずつ今回の研修で学んだことに関するプレゼンテーションを英語で行った。以前よりも英語で話すことに自信がいった。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>特に印象的だったのは交通事情だ。インドネシアの道路の様子は日本とはかなり違っていて驚いた。はじめに気づいたのは、バイクがとても多く走っていることだった。特にスクータータイプのものが多かった。老若男女問わず多くの人がバイクを利用しているようだった。よくヘルメットを着けていなかったり、3人以上で乗っていたりする人も見かけた。また、全体的に車・バイクともに運転が荒いと感じた。強引に追い越す、追突しそうなほど車間距離が狭い、対向車が通り過ぎるのを待たずに右折する。このような運転が当たり前のように行われていた。安全に気をつけて慎重に運転するのは、インドネシアではかえって危なくなるのではないかと感じた。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>現地の大学生と英語で意思疎通ができた経験が、英語を話すことへの自信につながった。お互いの国の文化の話題が多かった。特にインドネシアの言語にまつわる話を聞くのが面白かった。中でも今回滞在したジャワ島では、伝統的に使われてきた言葉とヨーロッパ諸国による統治の影響を受けて比較的新しくできた言葉が使われているという話が印象に残っている。またこの経験から、自分をもっと英語を勉強する必要があるとも気づいた。会話中言いたいことがすぐに言葉にできなかつたり、伝えたいことがなかなか正しく伝わらなかつたりすることがしばしばあった。よりスムーズに英語を話すためには、もっと単語や言い回しを覚える必要があると感じた。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>今回の研修で学んだインドネシアの社会や文化、農業に関する知識を、大学での研究や大学卒業後の仕事に活かすという形で地域社会の発展に寄与していきたい。大学では、これから熱帯の作物について研究するつもりであり、熱帯に属するインドネシアの農業の知識を活かす機会は多くなると考えている。また現地で人々の生活の様子を見てきたため、現地に訪れたことのない人に比べて、少しはインドネシアの人の価値観について理解できているつもりである。そのため大学・職場どちらにおいても、インドネシアの人と共同で何かをすることになったときには、率先して自分の属する組織とインドネシアの人との仲介をする役割になりたい。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 農学部国際食料資源学特別コース2年

氏名: 小川 梨瑠

授業科目名	海外研修
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
Lecture1~3では熱帯作物や稲について学習した。環境に適した稲の特徴や品種改良について学ぶことができた。アミロペクチンが多く含まれているほどもちもちとした米で、アミロースが多いほどもちもちではなくなることが分かった。Lecture4では、コーヒーの生産工場に訪れた。コーヒー豆の選別を見たり、コーヒー農園に訪れたりしてどのような生産過程が成されているか実際に見て学ぶことができた。最終日のプレゼン発表では、この工場学んだ「コピルアク」と「ハニープロセス」について発表を行った。Lecture5では果物、Lecture6では花、Lecture7では薬草やハーブについて学ぶことができた。	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
空港から降りたところのジャカルタは、日本の首都地である東京のような街並みで高層ビルが立ち並んでいたが、私たちが滞在した付近は景色が180度違うところで、日本と比べて貧富の差が非常に大きいことが分かった。現地では水道水が衛生的に良い状態ではなく、飲むのはもちろん歯磨きすらも毎回購入した飲料水を使わなければならなかった。風呂にはシャワーが無くお湯も出ないため、溜まっている水をバケツで汲んで洗った。インドネシアでは物価が安く、日本で3000円はするであろう服が500円で売られていたことに驚いた。コーランが朝の4時30分に流れお祈りが始まったが、予想以上にコーランの音が大きく目覚めてしまった。	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
言語に関して、研修前は現地の学生と互いに母国語でない英語で話すことに不安な気持ちを抱いていた。しかし、徐々にコミュニケーションを取る内に他愛のない会話をするほど、積極的に話そうという気持ちが芽生えてきた。英語でコミュニケーションを取るだけでなく、こちらから日本語を教えたり、現地の学生からインドネシア語を教わったりしたことから、言語を学ぶことがより楽しく感じるようになった。また生活面に関しては、日本での暮らしと現地での暮らしの大きな違いに衝撃を受け、「早くに日本に帰りたい」と思っていたが、徐々に慣れて現地の人や文化に親しみをもち、最終日には「まだここに滞在していきたい」という気持ちに変化していた。	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
まずは家族や友人、親戚など身近な人に現地での実体験や学び、考えたことを伝えることが大事だと思う。インドネシアの海外研修を通して、自分の当たり前な日常生活が贅沢であることを実感した。日々の暮らしの中で、自分が使っているものや電気、水などをこれまで以上に大切に使いたいと思った。また現地の学生との交流を通して、英語の聞き取り能力をスキルアップしたいと思った。発音の違いだけで一つの単語が伝わらなかつたり聞き取れなかつたりすることがあった。インドネシアの学生が日本に訪れた際に地元や日本の魅力をスムーズに紹介できるように英語の勉強に励みたい。	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年):

国際食糧資源学特別コース・2年

氏名: 奥山 昂星

授業科目名	海外研修
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>インドネシアの農業研修を通じて、私はさまざまな学習成果を得ました。中でも特にコーヒーと熱帯作物について学ぶことが出来ました。コーヒーに関してはパンガレンガンを訪れ、アラビカ種のコーヒーについて学ぶことが出来ました。アラビカ種は主に高地で栽培されているコーヒーであり酸味が強く風味が強いことで有名ですが問題も多く、気候変動、コーヒー病害虫、土壌劣化などが課題として挙げられ、これらの問題に対処するための持続可能な農法が重要であると学びました。他に熱帯作物や米、現地の生活など多くのことを学ぶことが出来ました。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>私が今回現地で生活して気づいたこととしては現地の人たちはとてもサービス精神が旺盛であるということです。どこに行っても笑顔で受け入れてさまざまなことをしてくれ、この精神は私たちにとってとても大切な感情であると学びました。また、現地での生活においては日本と文化が大きく違い、トイレや入浴の際には最初のうちは苦勞し、嫌だと感じることも大きくありましたが、慣れていくうちにこの方法もインドネシアの文化の一部であると受け入れることができ、生活の中で現地の文化を大きく学ぶことが出来ました。現地の人と話しながら、インドネシアの文化を知れたのはとてもよい経験となりました</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>今回日本からインドネシアに行き、現地の人々とコミュニケーションをとることで言語の壁を乗り越える自信を持つようになりました。具体的には現地に訪れた初日には、自分の伝えたいことがなかなか伝わらなかったり、相手の話していることがなかなか理解出来なく、心が折れることが何回もありましたが、次第にジェスチャーを使ったり、書くことで伝えたりと、他の言語使用する人との会話のコツのようなものを掴むことが出来ました。また、英語技能に関しても日本にいる時には気づけなかった自分の弱点を知ることが出来ました。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>インドネシアでの学びから、地域社会の発展に寄与するための私の今後の目標は、今回学んだ農業の知識や経験、文化の知識や言語能力を使用して異なる文化や背景を持つ人々と協力しながらコミュニケーションのスキルを磨いていき、将来的には持続可能な農業、国際協力の分野で積極的に活動し、日本や鹿児島とインドネシアをはじめ、世界の様々な地域の架け橋となり活躍できるような人材になりたいと考えています。そのために在学中の私の目標としては英語力のさらなる強化と様々な国を訪れ、より多くの文化に触れていくことだと考えています。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 農学部 2年

氏名: 蒲浦早咲

授業科目名	海外研修
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>研修先では熱帯作物やインドネシアで行われている農業についての講義を受けたり、実際に農園や田んぼ、コーヒー農園、植物園を訪れ、熱帯作物がどのように栽培されているのかについて学んだ。研修に行く前に現地での農業について調べたり、大学の講義を通して、作物に適した気温や湿度などの栽培条件については知っていた。しかし、実際に自分の目で熱帯作物がどのように育っているのを見たり、気温や湿度を体感したりしたこと、現地の学生とインドネシアが抱えている農業の問題点について話を聞いたことで、自分が想像していた栽培環境や、下調べで得た知識とのズレに気づくことが出来た。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>現地での生活を通して、イスラム教徒の生活を見ることが出来き、料理で出て来るお肉は鶏肉か牛肉のみであること、スーパーで買った商品にハラールマークがついていること、洋服を選んでいいる時に、今まで接客してくれていた店員さんがお祈りを始めたことを見ることが出来た。信仰する宗教によって生活がこれほどまでも変わるのだと気づいた。また、現地の学生と屋台に行きご飯を食べている際、小さい男の子がティッシュを差し出してきた、お金を要求してきた。夜遅い時間に子供が商売をしていることを見て、やはり経済格差があり、貧困に陥っている人が多くいるのだと感じ、問題は深刻なのだわかった。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>研修を通して英語でのコミュニケーション能力を向上させることが出来たと思う。研修が始まってすぐの時は、現地の学生からされた質問に答えても相手が求めている答えをしてしまい、相手を困らせ意思疎通がうまく取れていなかった。しかし、研修が終わる頃には、自分の伝えたいことを相手が理解しやすい英語で伝えられるようになり、スムーズな会話ができるようになった。また、他の学生が講義を受け、内容を理解し質問をしたり、現地の学生と流暢な英語で会話し楽しそうにしているのを見て、自身の語学能力が劣っていることに気がつくことができ、英語の勉強への意欲を格段に上げることが出来た。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>今回の研修を通して、その国の実際の現状と自分が想像している状況とのギャップを知ることができた。様々な問題についての知識をつけることはとても大切なことだが、自分の目で現状を把握しながら、問題の核心を理解することがより大切なことだと感じた。農業に関して抱える問題は国によって異なる。これから大学の講義で農業の専門的な知識を多く蓄え、問題を様々な視点から見れる力を身につけていきたい。その上で現地に行き、その国が抱える問題に対し適切な解決方法を導き出すことで、農業の発展に貢献できるよう頑張っていきたい。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 農学部国際食料資源学コース2年

氏名: 鈴木凜々子

授業科目名	海外研修
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>今回の研修では、インドネシアのボゴール農科大学サマーコースに参加した。現地では、熱帯作物、穀物、熱帯果実、園芸作物、花など農業におけるさまざまな分野を学んだ。私は学部2年生のため、専門的な知識は多く持たないままインドネシアに行った。そもそも、日本の講義では聞いたことのない農業知識を身につけることができた。インドネシアでは、熱帯作物が主に作られている。日本とは異なる植物に注目した学習を行うことができた。また、主にコミュニケーションが英語だったため、会話英語力が向上した。日本語で考えて英語に変換することに時間がかかっていたが、研修で日常的に英語を使うことで変換が速くなったと感じる。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>インドネシアでは、米が主食である。現地学生の話聞いたが、米を食べなければ食事をしたと感じないと言っていた。講義でインドネシアは米生産が多いと聞いていたが、実際に消費量の多さを体験した。日常生活の気づきとしては、イスラム教の影響について気がつくことが多かった。1日に5回のお祈り時間があるため、その時間になると近くのスピーカーから大音量でコーランが流れていた。また、女性は髪にビジャブをしていた。宗教の影響が日常生活には強くはない私たちにとって新鮮だった。ただ、ムスリムは厳格な信者が多いイメージだったが、私たち日本人の文化に対して市民も寛容だったことに驚いた。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>インドネシアは、日本と大きく異なる文化を持っている。最も驚いたのは、シャワーが一般的ではなく、大きな桶に溜めた水を被ってシャワーを済ませること、トイレトペーパーを使う習慣がないことだった。日本の水回り衛生環境は世界でもトップレベルだということは理解していたけれど、実際に体験すると、生活への影響の大きさを感じた。日常と違う水浴びという行為が日常になることはストレスだった。生活に身近な環境が変化することの自身への影響の大きさを感じて、今までは、大きな研究や抽象的な分野が魅力的に見えていたが、より身近なものについて着目することに可能性を感じるようになった。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>地域社会の発展において、住民が研究成果の利益を実感する機会があると研究活動への理解が進みやすいのではないかと3で記述した体験を通して考えるようになった。身近な問題や、そもそも問題として捉えられていないが改善すると便利なことを見つけることで、地域社会の中核である住民の生活満足度の向上につながると考える。自身の目標として、現在興味がある商品の安全流通分野において、より人の生活に近い、実感しやすい発明や、新たな考え方を発信できるようになりたい。また、そのために、自分の生活や友人の発言から、みんなが注目していない新しい課題発見ができるようにしたい。人と同じ視点ではなく、他の視点から見たらどうかという意識を持ちたい。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 農学部・2年

氏名: 関 悠人

授業科目名	海外研修
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>研修中は主にボゴールを拠点とし、現地のIPB大学の学生4人と共に様々な施設・農園を回った。また、IPB大学は稲の品種試験用の圃場やキャッサバ・タロイモなどの各種熱帯作物の畑を所有しており、学内だけでも多くの作物を間近で見触れることが出来た。4日目に訪れたコーヒー農園は加工場が高度1200m、農場が高度1600m地点にあり、コーヒーの木は急勾配の坂の斜面に植えられるということを初めて知った。私自身、熱帯作物や熱帯での農業に関する知識が少なかったが、IPB大学の教授や生徒が実物を交えながら説明してくれたことで、知識を得るだけでなく英語力も大いに伸びたと感じる。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>インドネシア国民の8割以上がムスリムであるため、イスラム教が生活に影響していると感じる部分は多かった。毎朝4時過ぎになると近くのモスクからコーランが流れ始め、昼ご飯を食べている時や町中を歩いている時にもコーランや祈りの言葉が至る所から聞こえてくる。また、私が去年訪れたトルコ(ムスリムの割合は99%)では、ヒジャブを着けている女性は少数派で同行したアンカラ大学の学生では誰一人ヒジャブを着けていなかった。しかしインドネシアでは、観光客を除けばほとんどの女性がヒジャブを着けており、学生や小さな子供も例外ではなかった。また、お菓子やパンなどほとんどの食品にハラール認証がついており、インドネシアのムスリムが(トルコと比較して)イスラム教に厳格であることが感じられた。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>研修の前後で最も成長したのは英語力であると感じる。現地の学生は英語が上手ではあったものの、やはり発音の違いから生じる互いの訛りに苦戦することが多かった。しかし、世間話や質問をしたり、あちらからの日本語に関する質問に答えたりする中で、持ち合わせている語彙で瞬時に文を作る能力が向上したと感じる。また、最終日の空港で引率のムンデ先生から英語が上達していると言われたため、非常に嬉しく思った。また、ムスリムへの基本的な接し方も会得できたと感じる。昼間にコーランが流れ始めたら見ているテレビの音量を小さくしたり、プレゼントとして持ってくるお菓子にも配慮する(豚肉を含んでいないもの)ことが出来た。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>今回の研修では熱帯作物のみならず、先進的な農業(森林農法や複合農業)についても学ぶことが出来た。環境的に共通点が多いインドネシアの農業をこの目で見る事が出来たのは、非常に有意義なことであったと感じる。また、今後ムスリム人口は世界的に増えるとされており、日本経済が外国人人材に依存していることを考えると、近所にムスリムの方がいるという事も珍しいことではなくなってくる。今後はムスリムへの理解を深めるとともに、他の宗教への知識を付けることで、地域社会でも国際社会でも対応できるような人間になりたいと考えている。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 農学部国際食料資源学特別コース2年

氏名: 寺谷実花

授業科目名	海外研修
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>本研修では現地の大学で講義を受けることで、熱帯作物の生態や栽培方法について深く学ぶことができた。また、大学内の植物園で実際に栽培されているところを見学することで、学んだ知識がどのように実践されているか知ることができた。熱帯作物は鹿児島ではなかなか実物を見ることができないため、とても貴重な学びだったと考える。また、コーヒー農園やIRRIに訪問することができた。コーヒー農園では無駄のない加工方法や品質を管理するさまざまな工程を細かく知ることができた。IRRIではインドネシアの米文化や近年の品種改良の傾向を学ぶことができた。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>現地で一番驚いたことは日常と宗教が一体になっている点である。インドネシアは人口の9割程度がイスラム教を信仰している。朝4時にモスクからコーランが流れ、人々の生活もそれから始まる。他にも食事や通過儀礼など、生活全てがイスラム教に基づいている。現地の学生は、両親がイスラム教だから物心がついたらイスラム教徒だった、と言っていた。私が思っていた信仰心とは少し異なる信仰心をインドネシアの方は持っているのだなと思い、とても興味深かった。イスラム教徒の学生と5日間衣食住を共にすることで、異なる宗教の中で生きることについて考えさせられた。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>研修前と研修後で自分が変化した点として、他者と共に学ぶ姿勢を身につけることができた点が挙げられる。研修前は自分が学ぶことに前のめりになりすぎて、他の人より頑張らなくては、という焦りの気持ちが大きかった。しかし、研修が始まると授業内容が難しく、現地の大学生に解説してもらったり、わからない部分は他の生徒に聞いたりすることが必要だと気がついた。質問していくうちに、現地の学生や鹿児島大学の生徒とも打ち解けることができ、とても学びやすいと感じた。この経験を通して、他者と学ぶ姿勢を身につけることでより知識が吸収でき、学びやすい環境も整っていくということがわかった。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>本研修で現地の大学生と共に学んだ経験から、私は今後鹿児島大学で学んでいる留学生の学びのお手伝いしたいと考えた。今回の研修で生活面でも学業面でも現地の大学生にたくさん助けられた。そして、新しい文化に適應する難しさや、異なる文化圏の人と交流する楽しさと知ることができた。そのため、私も鹿児島大学で学んでいる留学生に異文化での生活に適應し、より良い学びの環境を提供する手助けをしたいと思う。このような手助けをすることで、留学生が安心して学業に専念することができるとともに、日本ひいては鹿児島の文化をより深く学んでもらえると予想する。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 農学部国際食料資源学特別コース・2年

氏名: 朝長寿奈子

授業科目名	海外研修
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>研修先では現地大学(IPB)で講義を受講したり、フィールド学習を行ったりした。大学の講義では稲やトロピカルフルーツなど熱帯ならではの特徴や性質を持つ農作物について学んだ。実際にキャッサバやマンゴスチンなどの熱帯植物を見ることが初めてだったので、とても興味深かった。フィールド学習は、バンドンにあるコーヒー農園やBSIP、スパイスやハーブを栽培している施設を訪れた。日本では見ることができない製造工程や栽培方法について知ることができ、価格設定や労働環境など新たな視点から考えることができるようになった。全ての講義や説明が英語で行われたため、完璧に理解することは難しかったが、現地の学生に聞いたり先生に質問したりするなど理解する努力をできたのは大きな成長だったと感じる。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>インドネシアは日本では体験したことがないようなことが毎日あった。私たちは大学のゲストハウスに宿泊させてもらっていたのだが、水で入浴していた。インドネシアは熱帯ということもあり、お湯で入浴する文化がないのだということが驚きだった。また、空港以外ではトイレトペーパーが設置されていないということが印象的だった。さらに、インドネシアはイスラム教徒が多い国でも有名である。街の至る所にモスクがあり、建物の中にはメッカの位置を示すシールが貼られていた。一緒に住んでいた現地の学生も朝4時から祈っていたことが印象的であった。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>研修前と後で感じた自身の変化は、英語を話すことにストレスをあまり感じなくなったことである。研修中は現地の方とは英語でコミュニケーションを取っていたが、特に一緒にサマーコースを受講していた現地の学生と話す機会が多かった。彼らは英語が堪能で、分かりにくい英語で話しかけても何とか答えようとしてくれた。そのため、積極的に話しに行くことができたし、交友関係も築くことができた。異国の地で友人ができたことは自分にとって大きな自信になったと感じる。また、現地で日本との文化の差を多く感じたが、それらを受け入れようと努力できたことも大きな成長であったと思う。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>インドネシアのコーヒー農園を訪れた際に、規格外のコーヒー豆を出荷しないようにするために機械と人の二重選定を行っていることや、農地のこだわりなどを聞いた上で、日本で売られているコーヒーの価格に疑問を感じた。生産者利益と販売価格のギャップが大きいことはよくないことだと知っていたが、実際に現場を見ると感じ方が違った。フェアトレード商品は価格が高いこともあり、積極的に購入していなかったが、なぜその価格なのか考えた上で商品を買おうと思った。また、今回の研修で英語に対するハードルが下がったので、日本でも英語を使う活動や勉強を継続していきたい。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 農学部国際食料資源学特別コース2年

氏名: 山下颯太

授業科目名	海外研修
1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>座学とフィールドで、インドネシアの農作物から観葉植物までその特性や管理している施設の役割を含めて情報量多く学んだ。17000以上の島と700のClimate zoneを持つインドネシアではひとつのフルーツでも何種類も分かれておりそれがローカルなレベルで流通している現状を知った。例えばジャックフルーツは15種類ほどが存在する。</p> <p>また熱帯における農業のこれから、将来について学ぶ機会があった。アグリフォレストリーが実践されている様子をコーヒー農園で見ることができた。印象的だったのは輸出を積極的に行っているコーヒー農家に行った際、若い人が多かったことだった。戦略的に取り組んでおり日本でこのように取り組んでいる人たちはどれほどいるだろうかと考えた。</p>	
2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>国民の8割がムスリムということもあり朝4時のお祈り(アザン)があるためインドネシアの朝は早いように感じた。6時に起きてすぐ朝食→すぐ出発という日が多く体力的にはかなり厳しかった。ただホストしてくれたボゴールの学生は夜遅くまで起きているに関わらず朝も早く、感心した。また飲み物や果物の多くは常温で水に至っては30度以上あり温水プールの水のようにあった。エアコンがないゲストハウスでの宿泊だったため、一層常温の水が温かく感じた。また、タイやラオスと同様に、中華製の激安アパレルを売っているお店を見る機会があった。私は「飛ぶように売れるわけでもないのにこの人たちは生活していけるのか、どんな生活をしているのか」いつか話を聞いてみたいとも思う。最後に、他の人と同じことになるがシャワーとトイレに関して。もっと強くないといけなと思わされた。</p>	
3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>これは成長点なのかわからないが、積極的に質問をすることができた。講義もそうだがフィールドでも気になったこと、単純に聞き取れなかった部分を確認するように心がけた。コーヒー農園では機械や労働の仕組みについて見学しながら、わからない部分を埋めていくように心がけた。</p> <p>またメモも可能な限り多く取ることができ、事後学習やプレゼンテーションの際の助けになった。フィールドに行くとき必ずメモを取るの、なんでも良いのでフィールドワークには定期的に参加するようにしたい。また、今回紙のメモとスマホの両方でメモを取ることで写真が必要な状況にはスマホで写真と注釈を添えて後から参考にできそうなメモを取ることができた。</p>	
4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)	
<p>鹿児島県産品の輸出に関わるアルバイト(インターン)をしているため海外の作物や需要、趣向などは海外に行くたびにしっかり感じ取って来たいと思っている。今回旅とは違う、専門的で集中的に学ぶことができたため、取ったメモや感じたことを知識として落とし込んでいけたら良いと感じている。</p> <p>また今後は研究室を選択していかなければならない時期になっているので、今回関心を持った点も考慮して決定していきたいと考えている。フィールドに行った内容は授業やゼミ活動等の際の理解に役立つので、まずは事後学習に取り組みたい。</p>	

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 水産学部・2年

氏名: 山本晴菜

授業科目名	海外研修
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>まず学習成果の一つは英語力の向上である。日常会話を英語で話すことで、普段の英語の学習ではあまり学べない英語のコミュニケーションについて学習し、使うことができた。普段使う日本語を英語に変換するというのは思っていたよりも難しかったが、英語を英語のまま聞き取るという能力が少し向上したように感じた。そして熱帯農業の知識を得たという点でも大きな学習成果と言える。今まで熱帯農業に関しては、ほとんど専門的な知識はなかったが、実際に講義を受けたり農園を見学して、稲作に関して、熱帯植物の育ち方、トロピカルフルーツの種類など、たくさんの知識を蓄えることができた。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>インドネシアはたくさんの島々からなり、いろいろな民族が生活していてさまざまな言語が存在するが、義務教育で全員インドネシア語で学ぶそうだった。そのため、インドネシアの人たちはみんなインドネシア語で会話するが、その発音が難しかった。多民族国家だからこそ、自分の民族の言語と共通のインドネシア語を話すという感覚は面白かった。また宗教の文化についても学びがたくさんあった。インドネシアは国民の9割がイスラム教であり、朝早くのお祈りやハラールと書かれた食べ物、お祈りする場所など宗教に基づいた生活を間近で見ることができた。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>この研修で一番成長した経験は、英語でのコミュニケーションをあまり恐れなくなったことである。具体的には、市場でものを買ったり、現地の人に質問したりするときである。最初は英語が伝わるか、間違った言い方をしていないか怖がってしまったり、なかなか自分から話しかけられなかったり、発言を恐れてしまった。しかし英語でのコミュニケーションの中で、人とのコミュニケーションにおいて大切なのは文法が完璧かどうかや発音ではなく、表情やその人に伝えようとする意思表示だと感じた。伝わったときの喜びはすごく大きかったし、自信にも繋がった。英語で話すことを恐れなくなったことが、自分の中で最も成長したことだと感じる。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>今回の研修で得た経験や知識を活かし、グローバルな視点で地域の課題や現状を考えたり、(特に農業の観点から)留学生など英語圏の人々と話して海外のことを知りたい。もっと具体的には、まだ英語力の強化が必要なため、もっと農学英語を身につけて、鹿児島の農業における問題点や課題を知り、熱帯農業の知識と比較したりなどである。また、海外の暮らしや文化にも興味が出てきたので、いろいろな国のことについて現地の人から詳しく話を聞きたい。そして鹿児島の農業発展に向けて、グローバルな観点から考えられるような人間になれるように、これからも努力していきたい。</p>	